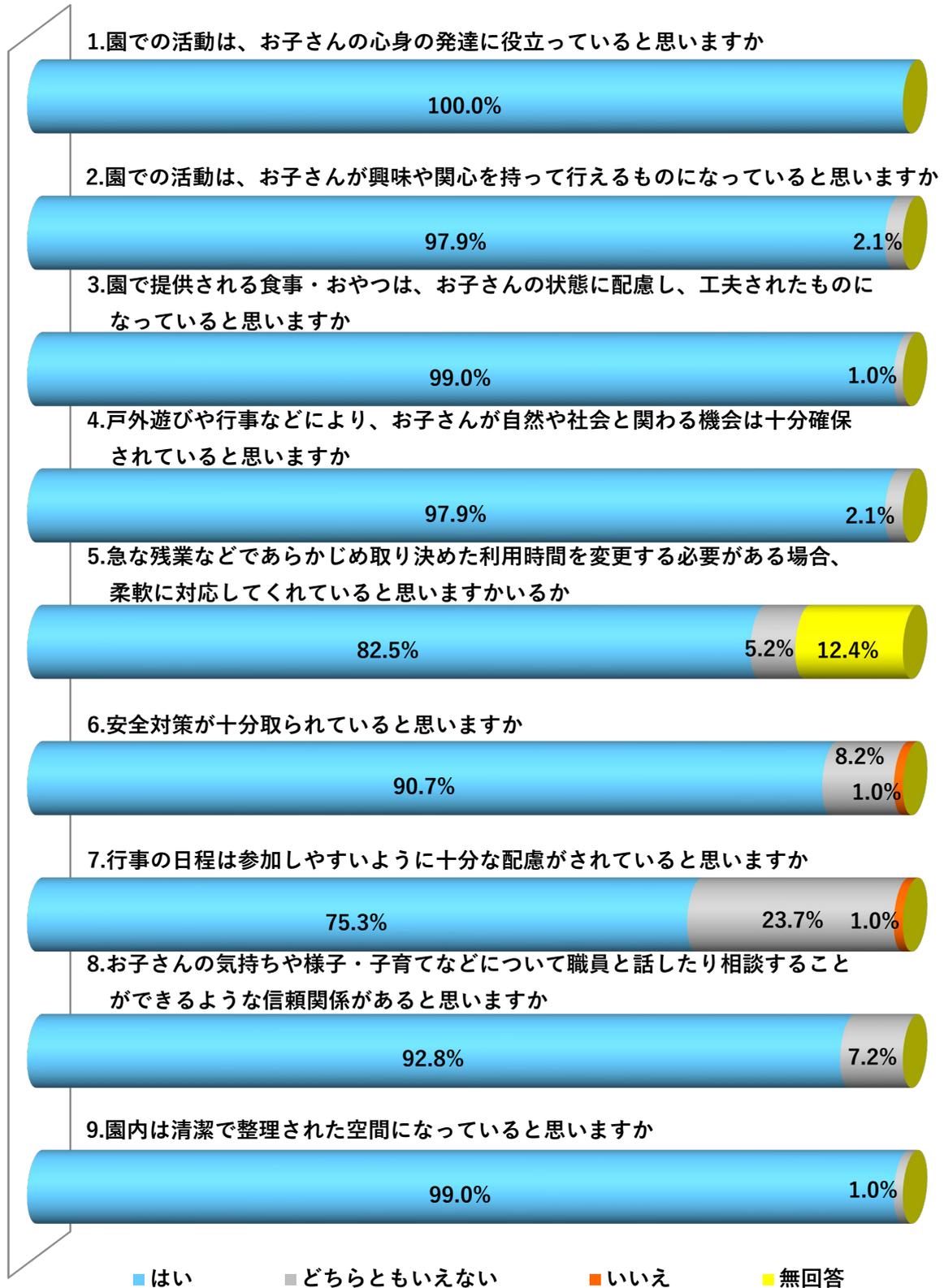
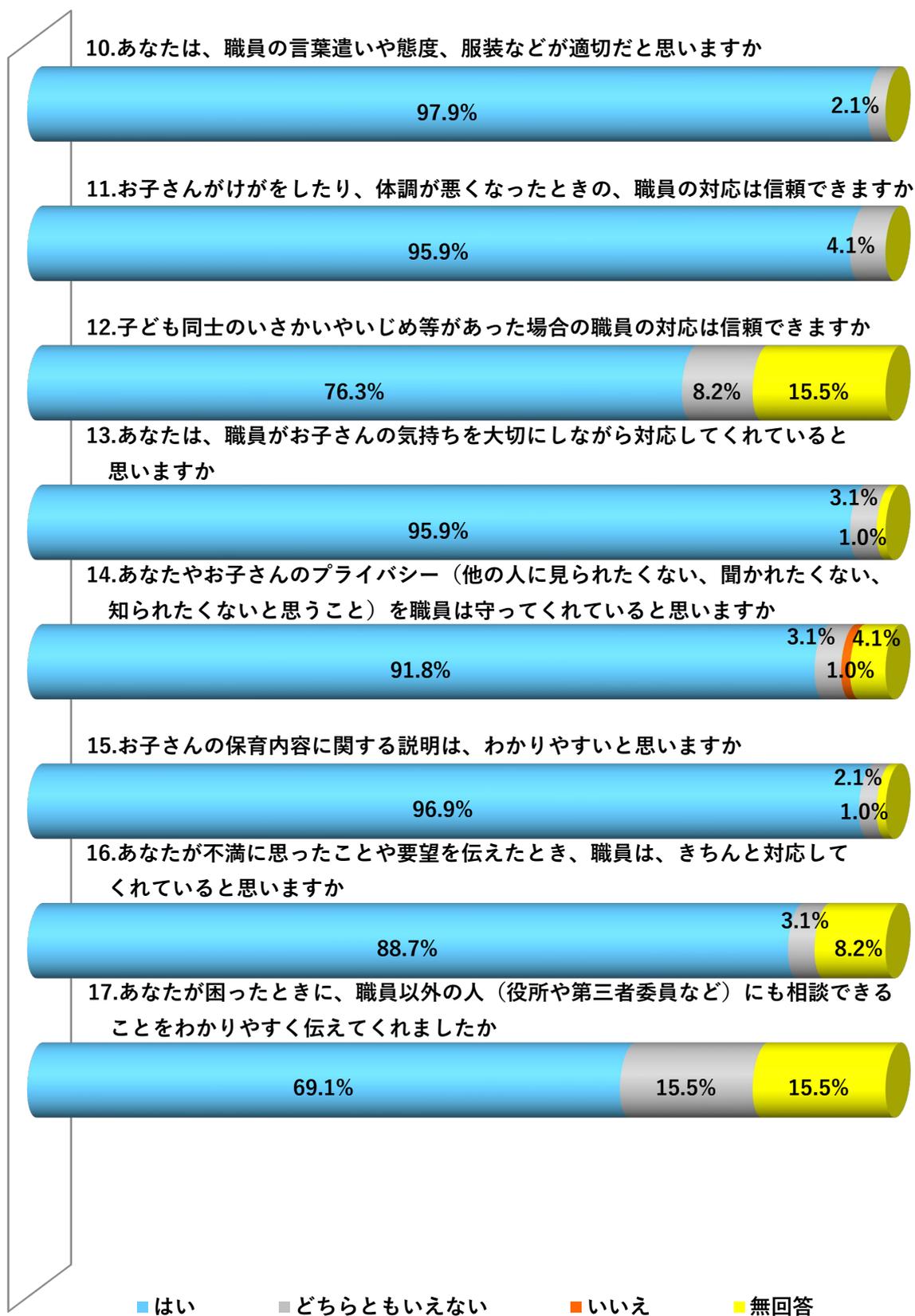


利用者アンケート調査結果分析シート(グラフ)

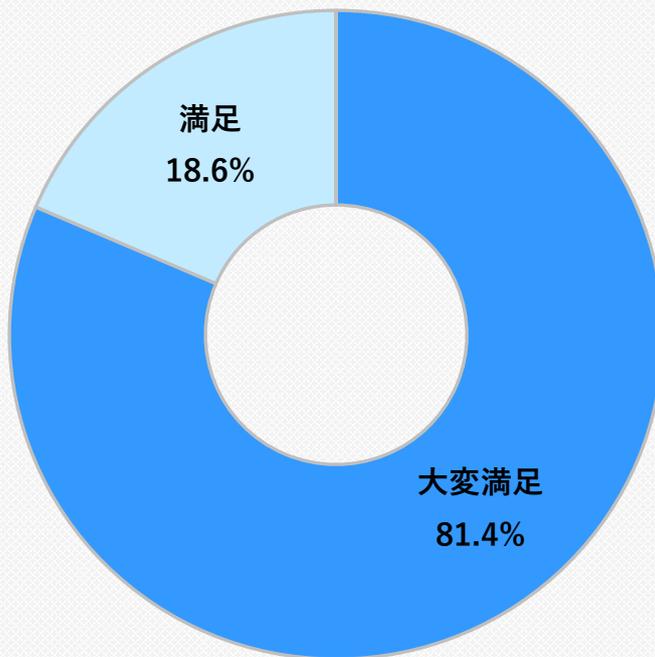
回答数： 97 / 125

回収率： 77.6%



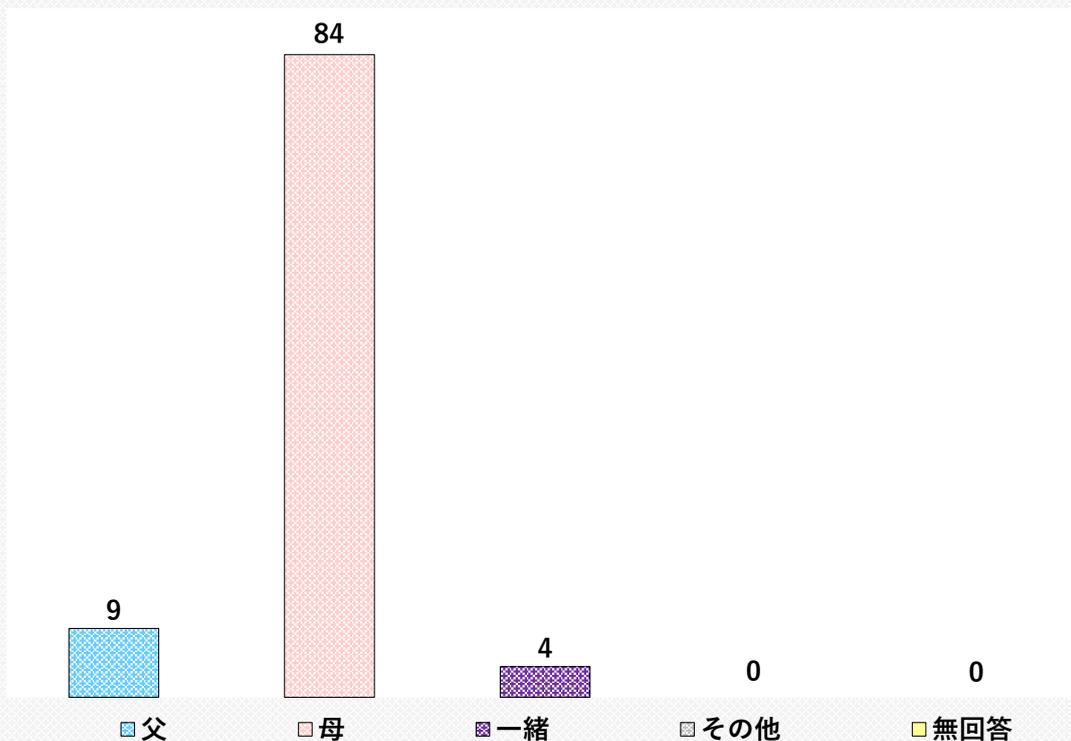


総合的満足度グラフ

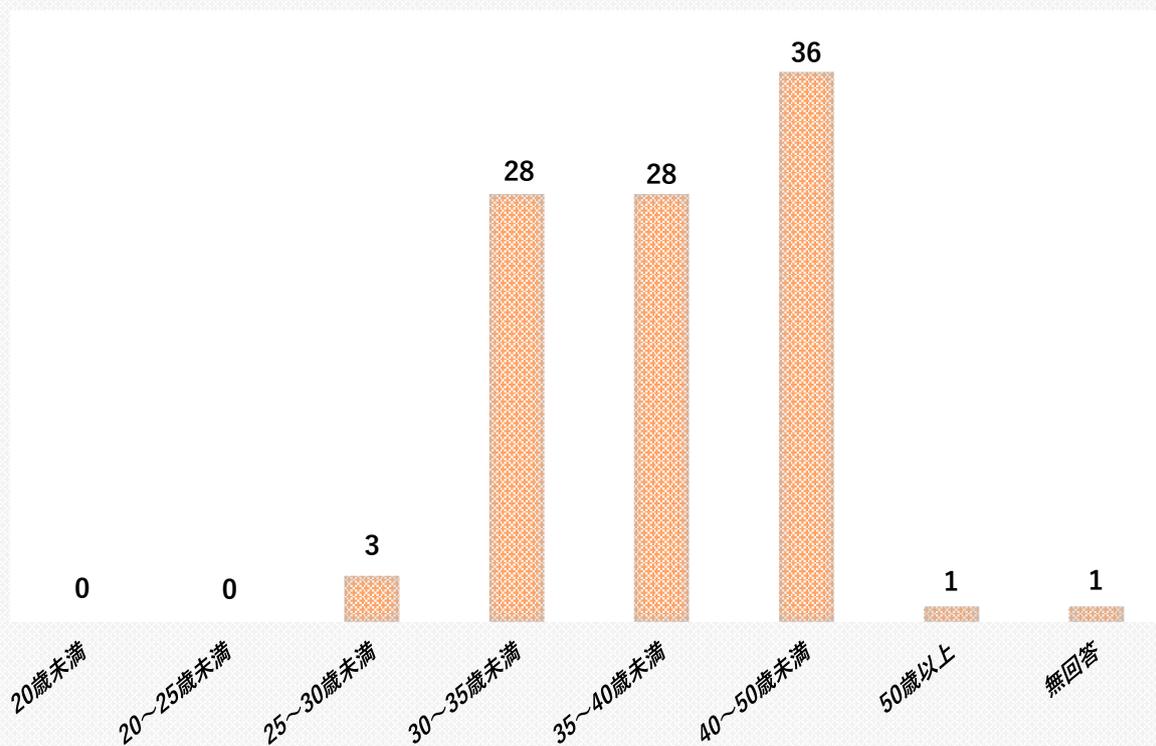


■ 大満足 ■ 満足 ■ 普通 ■ 不満 ■ 大満足 ■ 無回答

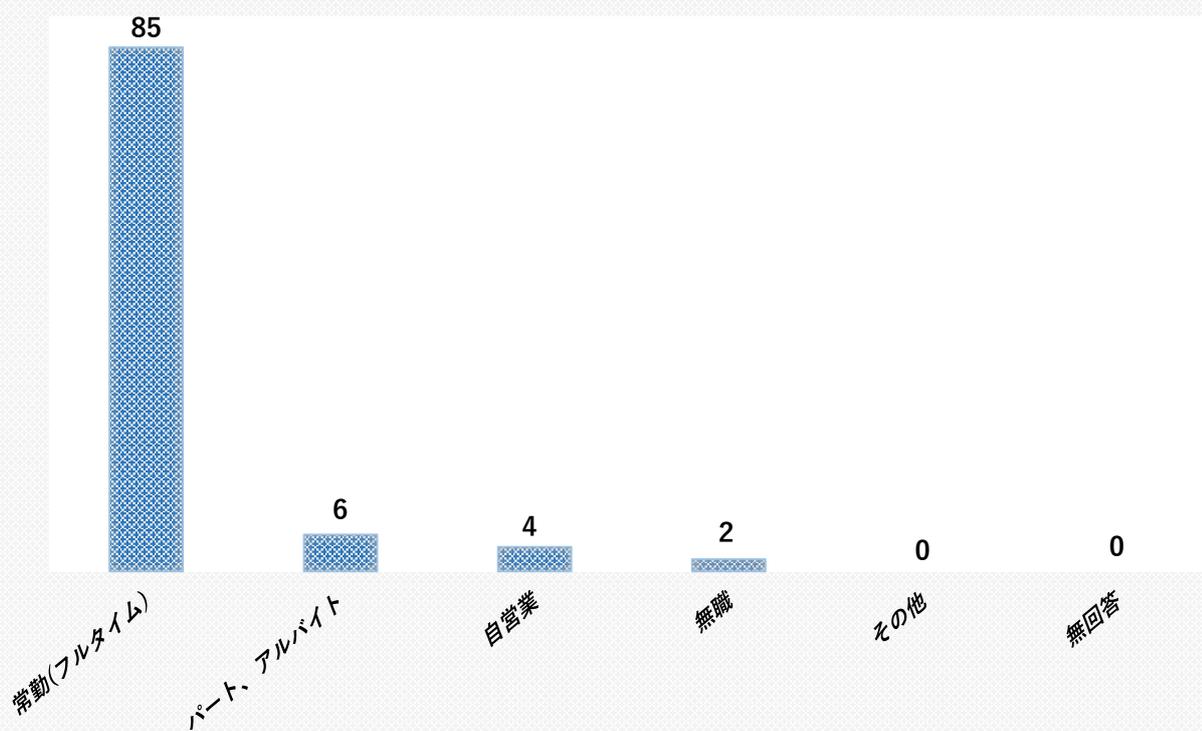
調査票記入者



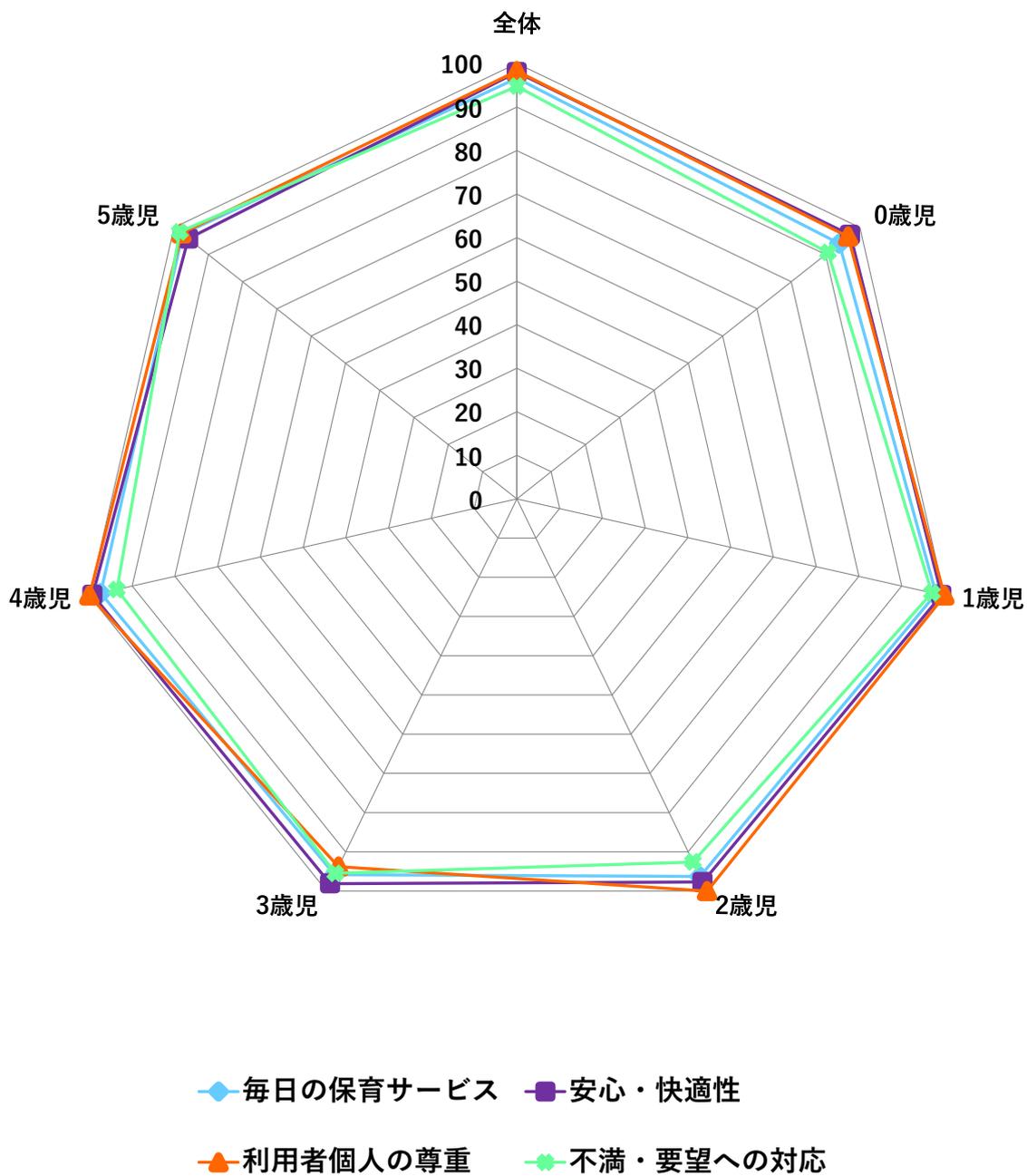
記入者（年齢別）



保護者勤務形態

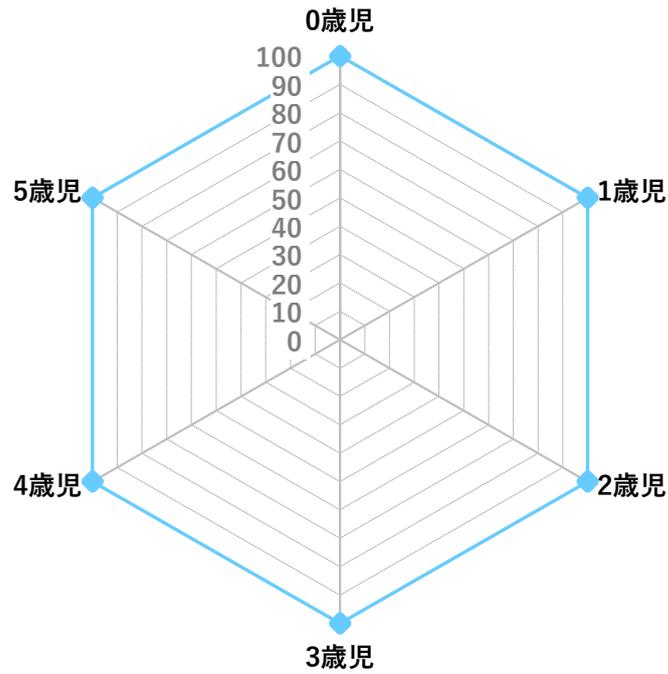


利用者別カテゴリー別評価

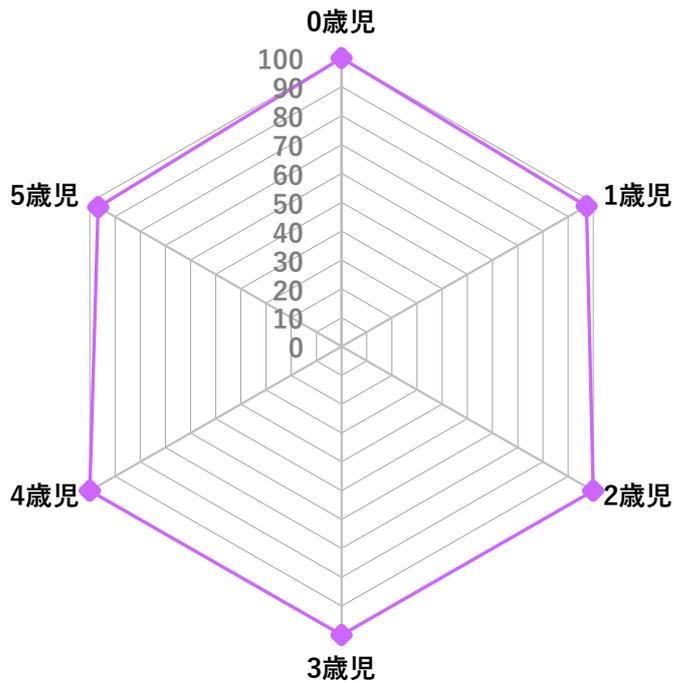


生活場面ごとのサービス

◆ 子どもの心身の発達に役立つ活動

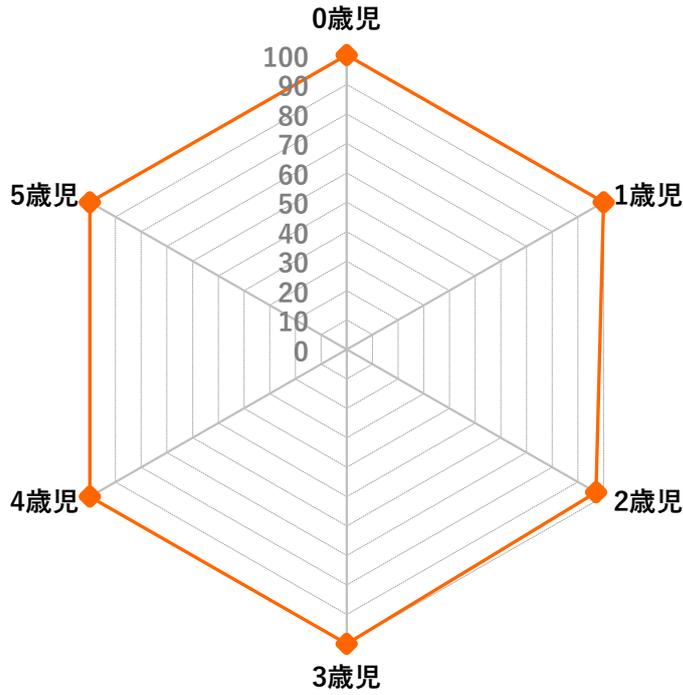


◆ 子どもが興味や関心を持つ活動

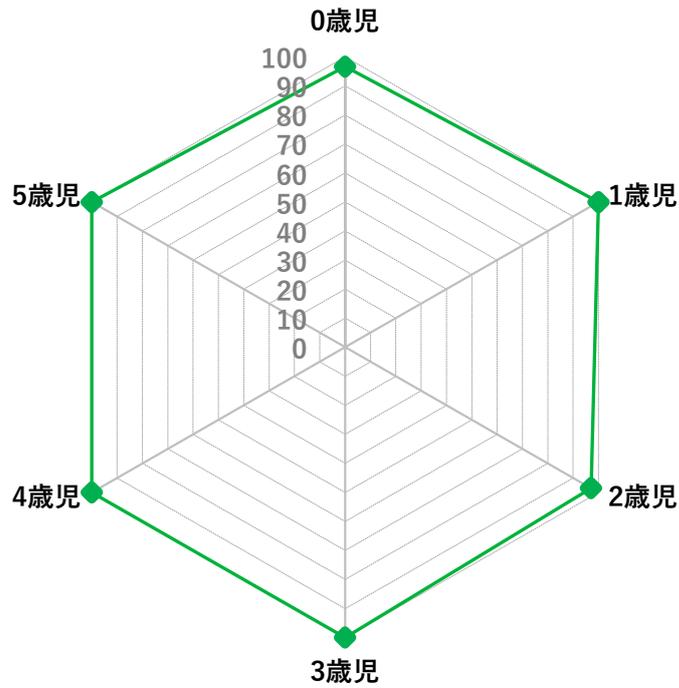


生活場面ごとのサービス

◆ 食事・おやつは、子どもの状態に配慮し、工夫してるか

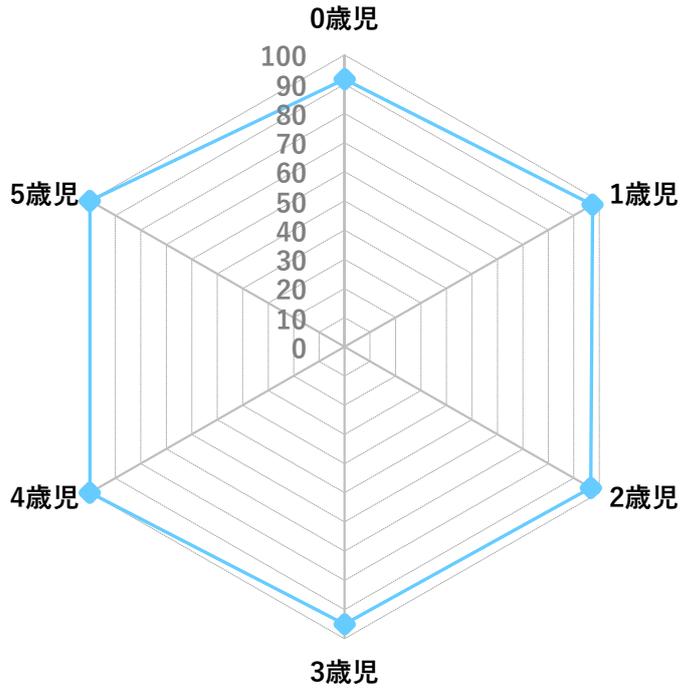


◆ 戸外遊びや行事などにより、子どもが自然や社会と関わる機会は十分確保されているか

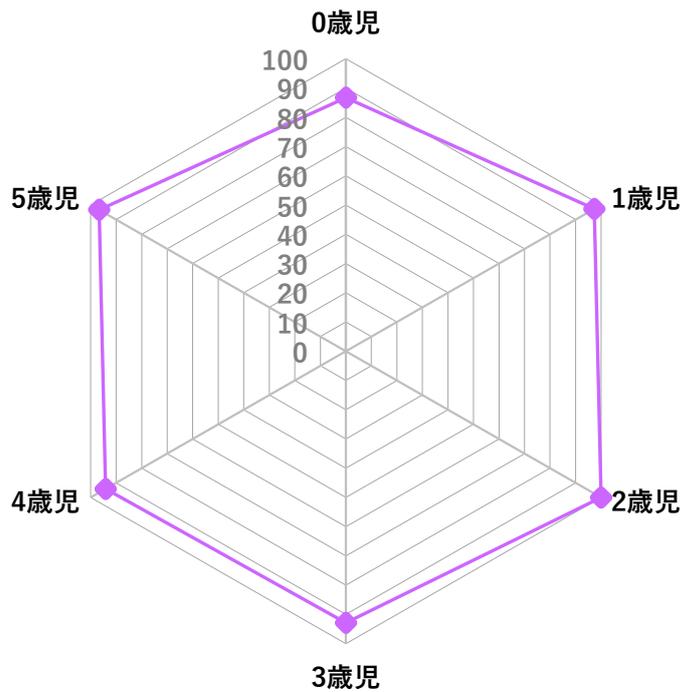


生活場面ごとのサービス

◆ 利用時間を変更する時の対応

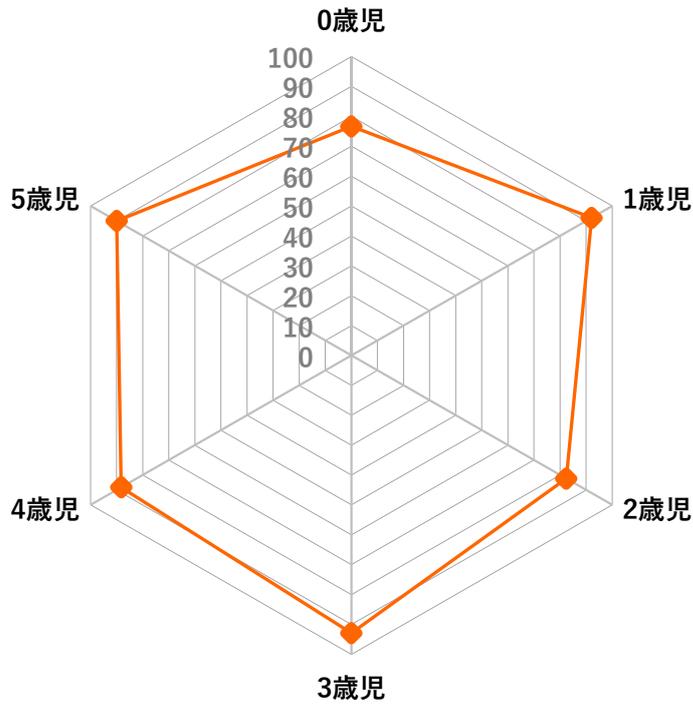


◆ 安全対策

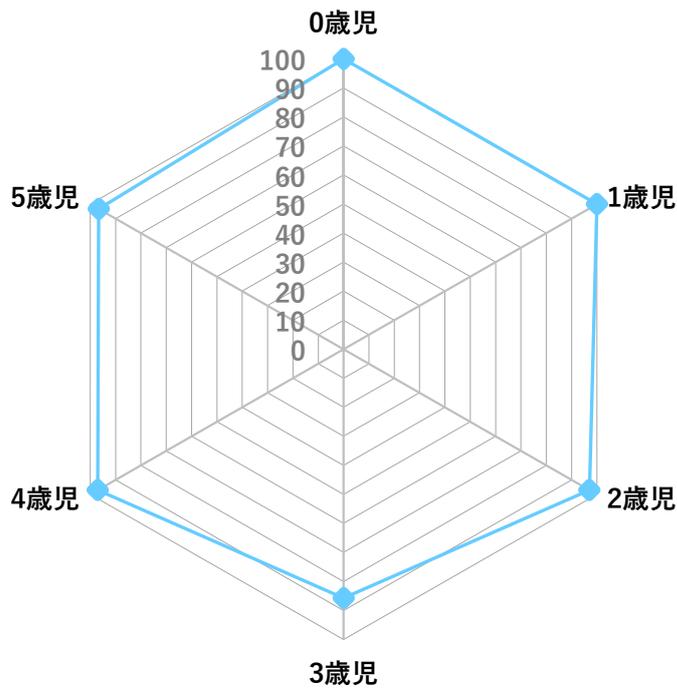


生活場面ごとのサービス

◆ 行事の日程への配慮



◆ 職員と話したり相談できるような信頼関係



No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	分野別・階層別の多様な研修の実施により人材育成に積極的に取り組んでいる
	内容	園では、新任職員研修や園長研修・マネジメント研修などの階層別研修や、保育研修・給食食育研修・保健研修などの職種別研修、年齢別保育研修・障害児保育研修・体操研修などの分野別研修など、対面及びオンラインを含む多様な研修を計画的に実施し、園の求める人材像に応じた人材の育成に取り組んでいる。非常に良い職員関係を土台として、職員が自ら学びを深めたり、自主的に各種研修に参加する風土ができており、学びと会議での研修報告等を通じた学びの共有、発達に応じた質の高い保育の実現という、好循環を実現する組織風土が醸成されている。
2	タイトル	保育の「見える化」により保護者との関係強化と保育の質的向上が図られている
	内容	保育支援ソフトを導入したことにより、子どもの活動を写真や動画、音声、文字などで視覚的に記録する「ドキュメンテーション」が可能となり、保護者に対して、リアルタイムかつ的確に園で行っている保育を「見える化」する取り組みを行っている。さらに、園からの伝達事項もリアルタイムに送信することが可能となっており、保育に対する保護者の関心も高く、我が子以外の子への興味、保育への関心も出てきている。職員も、保育士の子どもの見る目や思いをくみ取ろうとする気持ちが育ち、保育の質的向上と保護者との連携強化につながっている。
3	タイトル	より良い保育実践のための環境が整備されている
	内容	3歳児から5歳児は、外部講師による体育指導と英語教室を、5歳児はサッカー教室を行っている。英語教室は耳が自然と英語を聞き取ることが出来るように、体育指導では体幹を鍛えることで健康な体を作り、心身ともに健やかに育つように、サッカー教室はスポーツを通してルールを守ることが出来るように、という目標の下で行われている。職員は見守る姿勢を第一としているが、一緒に楽しむことで子どもが主体的にいろいろなことに関心を持つようにしている。また、広い園庭のもとで体を動かす機会にも恵まれており、より良い保育実践につながっている。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	短時間パートの職員を含め、個々の子どもの情報を適切に共有する体制構築が期待される
	内容	園では個々に応じた質の高い保育を提供するため、正規職員の保育士を基準を超えて配置しているほか、非常勤の保育士や、短時間のパートの職員を数多く雇用し、多くの子どもを預かりながらも、きめ細やかな保育が提供できる体制を整えている。職員間の良好な人間関係と職員会議等により、正規職員及び非常勤職員の間では、子どもの情報を適切に共有する体制が整っているが、短時間パートの職員との情報の共有については課題とされている。非常勤・パートミーティング等の取り組みを土台として、パート職員への更なる情報共有の仕組み作りが期待される。
2	タイトル	保護者がより多く参加できるように行事予定を周知することを提案したい
	内容	年間を通して数多くの行事が設定されており、その取り組みについては保護者から高い支持を得ている。特に、保護者参加の行事が複数あり、子供の成長を間近で観ることが出来る機会となっている。年間行事予定で前もってお知らせしているが、開催日の設定については、保護者の家庭の事情や就業事情によって賛否が分かれる面もある。また、行事の詳細について、事前連絡による周知徹底が図られることで、保護者のスケジュール調整がスムーズに行われると思われることから、連絡アプリ等を更に活用することを提案したい。
3	タイトル	地域の子育て支援の取り組みの準備を進め支援活動の充実を図られることを期待したい
	内容	「園は地域の子育て家庭支援を課題としており、以前は月1回「すみれの日」として実施し、身体測定やおもちゃを使った遊び、看護師や栄養士による育児相談などを行っていたが、コロナ禍以降は実施できずにいる。また、参加してくれる子どもの年齢や月齢の差が大きく、年齢にあったコーナー作りや、ホールや園庭などの開放も今後の課題としている。現在は地域の子育て家庭向けに情報誌を発行するのみの取り組みとなっているが、コロナも5類となり、環境が整いつつあるため支援活動の再開・充実が図られることに期待したい。」

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	6-6-1	手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている
タイトル①	働きやすい職場作りによる職員の定着と意欲向上を図り、保育の質向上に取り組んでいる	
内容①	園では、重点取り組み事項として“働きやすい職場作り”に取り組んでおり、職員の定着と意欲向上による、保育の質の向上が目指されている。今年度は新たに、保育士が子どもから一定の時間離れる「ノンコンタクトタイム」を導入し、保育士が子どもから離れる時間を確保することで、リフレッシュして保育に一層専念でき、職員同士の連携も深まっている。本調査における職員アンケートでも、職員間の人間関係が非常に良いことや働きやすい職場である、とのコメントが非常に多く寄せられており、職員の実感として働きやすい職場となっていることが伺える。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-4-3	日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している
タイトル②	園庭及び園舎内の環境を積極的に改善し、主体的に遊びこめる保育環境を整えている	
内容②	自然光が十分に入る園舎には、広々としたホールや乳児専用の園庭、遊具を備えた広い園庭、歩行の練習等を安全に行える屋外スペース、全面ゴムチップの屋上テラスなどを備え、子どもが年齢や発達に応じて主体性を発揮し、全身を使ってのびのびを成長できる保育環境が整っている。園では、ヒヤリハットや職員の気づきをもとに、危険箇所と思われる場所は早期に改修を図っており、安心安全の環境作りに取り組んでいる。給食室も子どもの目線で調理風景が見られる設計となっており、子どもの興味・関心や無限の可能性を引き出す環境作りが目指されている。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	6-4-6	子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している
タイトル③	食育計画に基づき、食べる喜びと作る楽しさを味わうための「食育」を進めている	
内容③	年間食育計画、食育目標に「食べる喜び、作る楽しさを味わう」と定めている。手作りの三色分類ボードで子どもたちが栄養に関心を持つように促したり、乳児クラスは野菜や果物に触れる「野菜見せ」を行ったり、箱の中に野菜や果物を入れ、見えないようにして触った感触で当てる「なぞなぞBOX」などを行ったりしている。また、幼児クラスは料理保育を行い、友達と一緒に自分たちで作ったものを味わうことなど、実践的な食育を進めている。	